

PAT-NO: JP357140222A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 57140222 A
TITLE: SUN VISOR
PUBN-DATE: August 30, 1982

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
MATSUKI, MASAMITSU
YOSHIDA, TOSHIJI

ASSIGNEE-INFORMATION:	COUNTRY
NAME	
NISSAN MOTOR CO LTD	N/A
KASAI KOGYO CO LTD	N/A

APPL-NO: JP56026092
APPL-DATE: February 26, 1981

INT-CL (IPC): B60J003/02
US-CL-CURRENT: 296/97.9

ABSTRACT:

PURPOSE: To prevent wrinkles or the like from being generated on a surface facing material by a method wherein a leaf spring clip for rotatably holding a shaft is fixed to a support.

CONSTITUTION: In order to shield the direct solar radiation, an end of a sun visor 20 being not used is gripped by the hand, then the sun visor 20 is rotated around the shaft 22 against a rotation-braking force of the leaf spring clip 24 and the grip is released at the position

where the direct solar radiation is shielded by the sun visor 20. Even the grip is released, the sun visor 20 is maintained at the abovementioned position by the rotation-braking force of the clip 24, so that the direct solar radiation is shielded. When the direction of the solar radiation is changed, the position of the sun visor 20 is controlled to follow up the solar radiation in the same manner as mentioned above.

COPYRIGHT: (C)1982, JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-140222

⑤ Int. Cl.³
B 60 J 3/02

識別記号

庁内整理番号
6519-3D

⑬ 公開 昭和57年(1982)8月30日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

⑭ サンバイザー

神奈川県高座郡寒川町宮山3316
番地河西工業株式会社内

⑮ 特 願 昭56-26092

⑯ 出 願 人 日産自動車株式会社

⑰ 出 願 昭56(1981)2月26日

横浜市神奈川区宝町2番地

⑱ 発 明 者 松木政光

⑰ 出 願 人 河西工業株式会社

東京都杉並区桃井3丁目5番1
号日産自動車株式会社荻窪事業
所内

東京都中央区日本橋2丁目3番
18号

⑲ 発 明 者 吉田利治

⑳ 代 理 人 弁理士 西脇民雄

明 細 書

1. 発明の名称

サ ン バ イ ザ ー

2. 特許請求の範囲

- (1) 車体に固定されるサンバイザー取付具と、一端が該サンバイザー取付具に回動自在に装着される略し字状のシャフトと、該シャフトに回動自在に装着されるサポートと、該サポートに取付けられた外形を形成する骨組枠と、該骨組枠に配設されたパッドと、前記骨組枠、パッド、サポートを覆う表皮材とからなるサンバイザーにおいて、

前記シャフトを回転停止自在に挟着する板ばねクリップを前記サポートに固着したことを特徴とするサンバイザー。

- (2) サポートにはシャフトを挿入する貫通孔を設けると共に、前記シャフトの一部を露出する切欠部を設け、該切欠部に板ばねクリップを装着したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のサンバイザー。

- (3) サポートを合成樹脂製に形成し、かつ稜線部を丸め形状にしたことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のサンバイザー。

3. 発明の詳細な説明

この発明は自動車等の乗物に取り付けられるサンバイザーに関する。

従来のサンバイザーとしては、例えば第1図～第3図に示すようなものがある。

図中1はサンバイザーで、車体2のフロントガラス3の上方左右位置にそれぞれ取り付けられ、運転中フロントシートの運転手および助手に直射して前方視界を妨げる日光をさえぎる日よけとして用いられている。

サンバイザー1は、サンバイザー取付金具4に回転自在に支承された略し字状のシャフト5に装着され、サポート6と、サポート6に接続された骨組棒7と、サポート6を除く骨組棒7間に配設したパッド8と、骨組棒7およびパッド8を覆う表皮材9とから構成されている。

サポート6は、シャフト5に装着されるU型断面を有するシャフトホルダ10を備え、シャフトホルダ10の両端に骨組棒7が挟着されている。

シャフト5に対してサンバイザー1が種々の回

- 3 -

わができ、ときには、破れたりすることがある。

また、サポートカバー13を設けるとサポートカバー13部の表皮材9がふくらみしわやたるみが生じて商品性が低下する他、部品点数も増え、金属製シャフトホルダ10とともに重量が増えるのみならず、組み付け工数も多くなって製作費も高くなっている。

さらに、シャフト5およびこれを挟着するシャフトホルダ10が金属製であるため、サンバイザー1は異音と回転むらを伴って回転する。これを防止するためにグリースを充填した場合、異音および回転むらがなくなるけれども、組み付けに際してグリースで表皮材9や作業者の手を汚すという問題点があった。

この発明は、このような従来の問題点に着目してなされたもので、外からビスを用いなくともシャフトに制動摩擦が与えられるようにシャフトを回転停止自在に挟着する板ばねクリップをサポートに固着することにより、前記問題点を解決することを目的としている。

- 5 -

転位置をとり且つその位置を維持できるようにするため、U型の板ばね製クリップ11がシャフト5および骨組棒7の一端を挟着する位置でシャフトホルダ10にはめられ、ビス12でシャフトホルダ10の両側壁が互いに締め付けられてシャフト5とシャフトホルダ10との間に制動摩擦が与えられている。符号13は上方の^{後部}部分が丸められたサポートカバーで、シャフトホルダ10およびクリップ11を覆っている。

このようなサンバイザー1の縁を手でつかんで、シャフト5とシャフトホルダ10との間の摩擦に抗してサンバイザー1をシャフト5のまわりに日光の直射をさえぎる位置へ回転させ、それから手をはなしても、制動摩擦によりサンバイザー1は前記位置で維持される。

しかしながら、このような従来のサンバイザーにあっては、表皮材からのビス12の締め付けでシャフト5に制動摩擦を与えているため、制動調整を要し、ビス12の頭を表皮材9から露出させなければならず、ビス12で締め付けると表皮材9にし

- 4 -

以下、この発明を図面に基づいて説明するにあたって従来の部材と同一ないし均等の部材については、同一の符号を付して重複した説明を省略する。

第4図～第6図は、この発明を自動車用サンバイザーに適用した一実施例を示す図である。まず、構成を説明すると、図中20は、サンバイザーで、内装されたサポート21を介してシャフト22に回転自在に取り付けられている。

サポート21は樹脂製のサポート本体23と、サポート本体23に装着されるU字状の板ばねクリップ24とから形成されている。サポート本体23はその上下後縁部が丸められており、縦方向の中央部に切欠部25が形成され、切欠部25の両側に同一のセンターを有する貫通孔26、27が形成されている。貫通孔26、27にスライド溝28、29が形成され、貫通孔27は異径孔で切欠部25と反対側の方が大きく形成され、つなぎ部に設けられた部30が形成されている。切欠部25の底部には、後記板ばねクリップ24を挿入し固定する矩形穴31が形成され、矩形穴31の両

- 6 -

側壁に後記板ばねクリップ24の爪35を係止する係止部である矩形の貫通孔32が形成されている。

サポート本体23の両端にL型形状の挿入孔33がそれぞれ形成されている。なお、サポート本体23の稜線部はすべて3.2mm R以上とする。

板ばねクリップ24は折曲されて一对の平行平面部34を有し、各先端に爪35を外側は切り起して矩形穴31および貫通孔32への装着部36が形成されてサポート本体23の切欠部25に固着されている。

また、シャフト22は、その先端にテーパ状の案内部42が形成され一部に突起部43を有する、周側に板ばねクリップ24の平行平面部34より幾分広い露出部としての平行平面部37が形成され、段付部38から先端に延びてサポート本体23の貫通孔26、27に嵌着されるとともに板ばねクリップ24で挟み付けられている。

さらに、サンバイザー20の骨組枠39は、ワイヤで形成され、その先端部にサポート本体23の挿入孔33の形状に対応してクランク状の挿入部40が形成されており、挿入部40の一部に抜け止め用のローレットが刻設されてサポート本体23に装着され

ている。

次に取り付け方法および使用方法について説明する。

取り付け方法について、まず射出成形されたサポート本体23の切欠部25の底部に形成された矩形穴31に板ばねクリップ24を装着部36から挿入し、爪35で抜けないように固着してサポート21を形成する。次いで、サポート本体23の挿入孔33に骨組枠39の挿入部40を嵌着し、そのクランク形状でシャフト22まわりの回転を拘束して骨組枠39をサポート21に装着する。そして、シャフト22の案内部42および突起部43を貫通孔26およびスライド溝28に沿って挿入しシャフト22の平行平面部37で板ばねクリップ24の平行平面部34を少し拡開させながら平行平面部37の端部に形成された段付部38が板ばねクリップ24に当たるまでシャフト22を挿入してサポート21に装着する。その後は、パッド8でサポート21および骨組枠39を覆い、さらにパッド8を表皮材9で覆ってサンバイザー20を組み付け、シャフト22に装着されたサンバイザー取付金具4

- 7 -

でサンバイザー20を自動車のフロントガラスの上方左右位置に取り付ける。尚、取付方法は、この他に、サポート21にシャフト22を装着し、その後板ばねクリップ24を矩形穴31に挿入させる方法であってもよい。

また使用方法について、直射日光をさえぎるには、不使用状態のサンバイザー20の縁を手でつかんで、板ばねクリップ24の回転制動力に抗してサンバイザー20をシャフト22のまわりを回転させ、日光の直射をさえぎる位置で手を離す。手を離しても、サンバイザー20は板ばねクリップ24の回転制動力により前記位置で保持されて直射日光が常時さえぎられる。日光の直射方向が変わった場合、前記と同様な手順で追従する。なお、ここではシャフトの平行平面部で説明したが、これに限定されることなく一つの平面部でもよいことは勿論である。

以上説明してきたようにこの発明によれば、その発明をサンバイザー取付金具で車体に回転自在に装着されたシャフトにサポートを介して骨組枠

が接続されたサンバイザーにおいて、シャフトを回転停止自在に挟着する板ばねクリップをサポートに固着したサンバイザーとしたため、カバーや調整ビスが不要になり、部品点数や組付工数が減少し、表皮材にしわ等が生ずるおそれもなく、見栄えが向上する。

シャフトの周側に段付部および突起部を形成した場合、前記効果に加えて、段付部および突起部がサポートに係止されるのでサンバイザーが使用中にシャフトから離脱することがない。

また、サポートを樹脂で形成し、その稜線部を丸めた場合、前記効果に加えて、樹脂製のため、サンバイザーは軽量になり、その回転がスムーズになり、異音も何んら発生せず、しかも、稜線部の丸め形状により、自動車の衝突時における不慮の事故をなくし、乗員の保護を図ることができる。

さらに、クランク状に折曲された骨組枠の両先端部をサポートの両側に形成されたL型挿入孔に挿入固着した場合、前記効果に加えて、骨組枠の先端部の回転が拘束されるのでサンバイザーが反

- 8 -

-109-

-10-

復使用されても変形することがないという効果が得られる。

4. 図面の簡単な説明

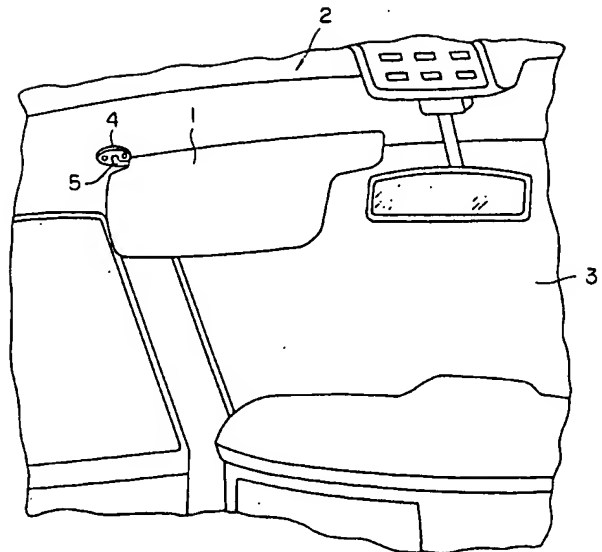
第1図は従来のサンバイザーを備えた車体の一部を示す斜視図、第2図は第1図のサンバイザーの一部を示す正面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ断面図、第4図はこの発明の一実施例に係るサンバイザーの一部を破断してサポートを示す正面図、第5図は第4図のⅤ-Ⅴ断面図である。
第6図はサポートの分解斜視図

20…サンバイザー、21…サポート、22…シャフト、23…サポート本体、24…板ばねクリップ、25…切欠部、26, 27…貫通孔、32…係合部である貫通孔、33…挿入孔、35…爪、37…平行平面部（露出部）、38…段付部、39…骨組棒、43…突起部。

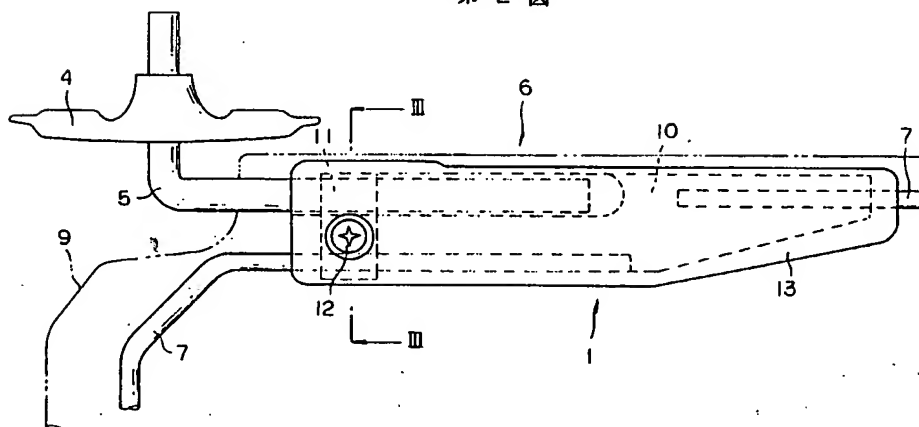
出願人 日産自動車株式会社
 同 河西工業株式会社

代理人 弁理士 西 脇 民 雄

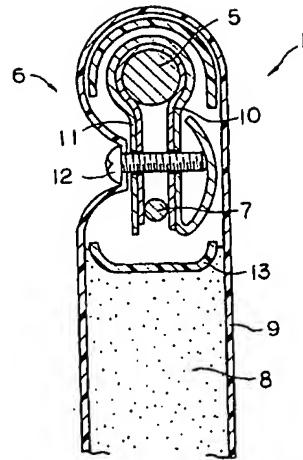
第1図



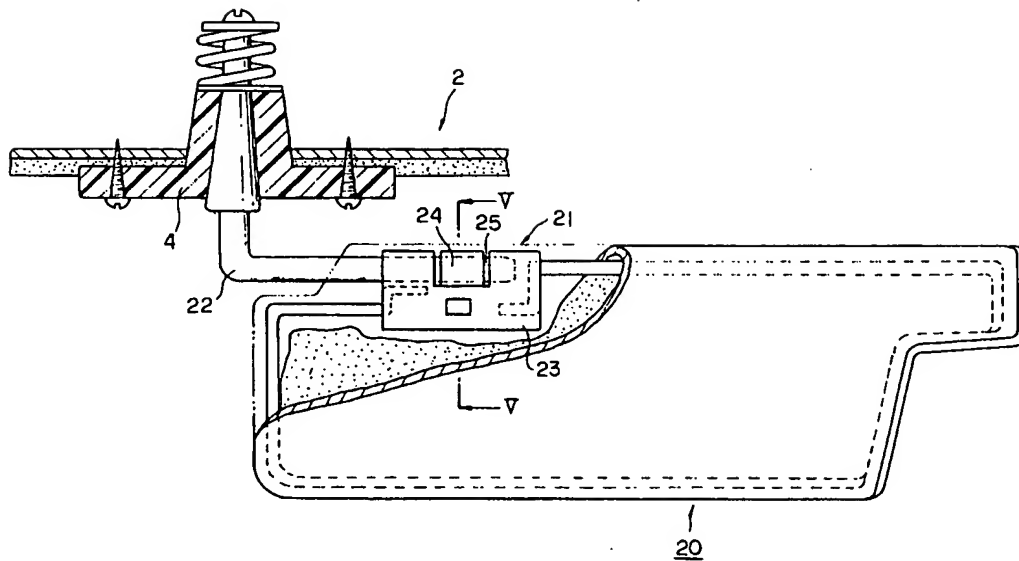
第2図



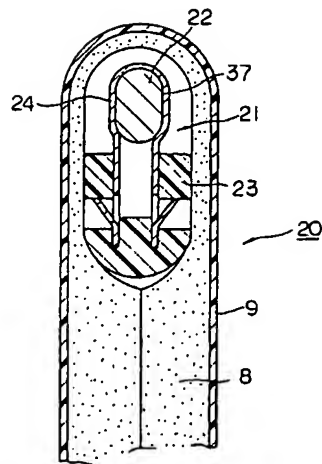
第 3 図



第 4 図



第 5 図



第 6 図

